2011年度 決算説明会

第88期(2011年4月1日~2012年3月31日)

2012.5.10



PACIFIC 太平洋互業株式会社



目 次

- 1. 会社の概要
- 2. 2011年度業績実績
- 3. 2012年度業績予想
- 4. 長期ビジョン・中期経営計画
- 5. トピックス

本資料取り扱い上の注意点

本資料に含まれる将来の見通しに関する記述は、現時点における情報に基づき判断したものであり、日本および海外の経済情勢や当社の関連する業界動向、為替変動等にかかわるリスクや不確定要因により実際の業績が記載の予想と大幅に異なる可能性があります。



1-1 当社の概要

◆創業 1930年8月

◆代表者 社長 小川信也

◆資本金 43億2千万円

◆株式 東証・名証一部上場('70年8月)(証券コード 7250)

	セグメント	プレス樹脂製品	バルブ製品事業		その他	合計
	事業	事業	タイヤバルブ・制御機器事業	で 07世		
単	売上高('11)	396億円 68%	97億円 17%	84億円 15%		578億円
独	主要工場	西大垣、東大垣 養老、九州、東北	美濃、北大垣	北大垣		国内7工場
, #	売上高('11)	568億円 71%	223億円	3億円 1%	795億円	
連	人員	1,940人	820人	110人	2,940人	
結	海外生産拠点	台湾、米国 中国	台湾、韓国 タイ、中国	_	_	5ヶ国 8会社
	主要顧客	トヨタ、ダイハツ、日野 三菱、ホンダ、スズキ プライムアースEVエナシー	ブリヂストン、横浜ゴム、住友ゴム、東洋ゴム イノアック、ミシュランタイヤ、トピー工業 デンソー、豊田自動織機、サンデン ヴァレオ、パナソニック、東芝、シャープ	トヨタ ホンダ 日産	地域企業	
	主要製品 プレス加工 樹脂加工、金型		タイヤバルブ バルブコア 空調用制御弁	TPMS	ゴルフ場 ソフトウェア 保険代理店	



1-2 企業結合の状況

1. 連結会社:12社

■プレス樹脂製品事業 ■バルブ製品事業

					事業分野	;			議決権	11年度	
	区分	会 社 名		プレス	バルブ	その他	主な事業内容	設立	比率	売上高	人員
		ピーアイシステム株式会社	(PSC)			•	情報処理、ソフト開発・販売	1987年	100%	4億円	55人
		太平洋開発株式会社	(PDC)			•	コルフ場資産管理(養老CC)	1972年	66.5%	2億円	20人
ı	国内	太養興産株式会社	(TYC)			•	ゴルフ場運営(養老CC)	2005年	(PDC) 100%	_	_
		太平洋産業株式会社	(TSC)	•			自動車用プレス製品 の製造・販売	1974年	100%	12億円	25人
		国内連結会社 計									
	米国	Pacific Industries USA Inc.	(PIU)	(:	持株会社	:)	下記米国会社の統括管理	1988年	100%	1	_
	小田	Pacific Manufacturing Ohio Inc.	(PMO)	•	•		自動車用プレス製品・バルブ関連 製品の製造・販売	1999年	(PIU) 100%	133億円	450人
	台湾	太平洋汽門工業(股)有限公司	(PVT)	•	•		自動車用プレス製品・バルフ 関連 製品の製造・販売	1984年	99.5%	60億円	220人
	韓国	太平洋バルブ工業株式会社	(PVI)		•		ハ゛ルブ関連製品の製造・販売	1987年	100%	11億円	75人
海		太平洋エアコントロール工業株式会社	(PAC)		•		カーエアコン部品の製造	2004年	(PVI 40%) 60%	12億円	115人
外	タイ	Pacific Industries(Thailand) Co.,Ltd.	(PIT)		•		バルブ関連製品の製造・販売	1989年	75%	14億円	145人
		青島太平洋宏豊精密機器有限公司 ※1	(QPH)		•		空調用バルブ関連製品の 製造・販売	2000年	(55%)	9億円	_
	中国	天津太平洋汽車部件有限公司	(TPA)	•			自動車用プレス製品の 製造・販売	2005年	100%	40億円	240人
	長	長沙太平洋半谷汽車部件有限公司 ※2	(CPH)	•			自動車用プレス製品の 製造・販売	2012年	(PVT 15%) (TPA 15%) 17%	0億円	5人
		海外連結会社計									1,250人

- ※1青島太平洋宏豊精密機器有限公司は、第3四半期において保有出資分を売却し、連結の範囲から除外しています。
- ※2長沙太平洋半谷汽車部件有限公司 は、2011年11月に会社を設立し、今期より連結の範囲に含めています。

2. 持分法適用会社:1社

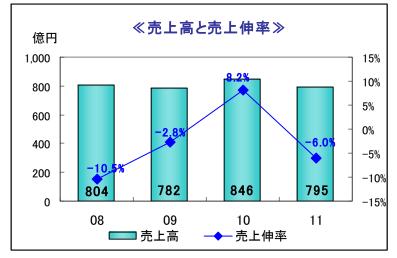
国内	PECホールディングス株式会社	(PEC)	•	オートフュース・電気小物製品の 製造・販売	1961年	26.4%	131億円	645人	.]
----	-----------------	-------	---	--------------------------	-------	-------	-------	------	----

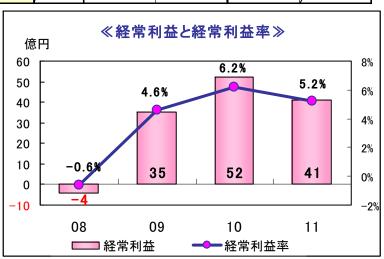


2-1 連結業績実績

[百万円]

						,	11年度			
			'10年度			連単	前期	明比	発表値比	
				発表値	大限	倍率	増減	増減率	増減	増減率
売	上	高	84,631	75,000	79,579	1.4	△5,052	△6.0%	4,579	6.1%
営	業利	益	5,151	3,500	3,699	1.9	△1,451	△28.2%	199	5.7%
経	常利	益	5,281	3,800	4,147	1.4	△1,134	△21.5%	347	9.1%
当	期 純 利	益	2,969	2,500	3,297	1.8	327	11.0%	797	31.9%
売経	上常利益	高率	6.2%	5.1%	5.2%		△1.0%		0.1%	
R	0	Е	8.2%	6.8%	8.6%		0.4%		1.8%	
R	0	Α	6.0%	4.6%	4.8%		△1.2%		0.2%	
一純	株 当 資	り産	(円) 684	_	748		64	9.4%	_	

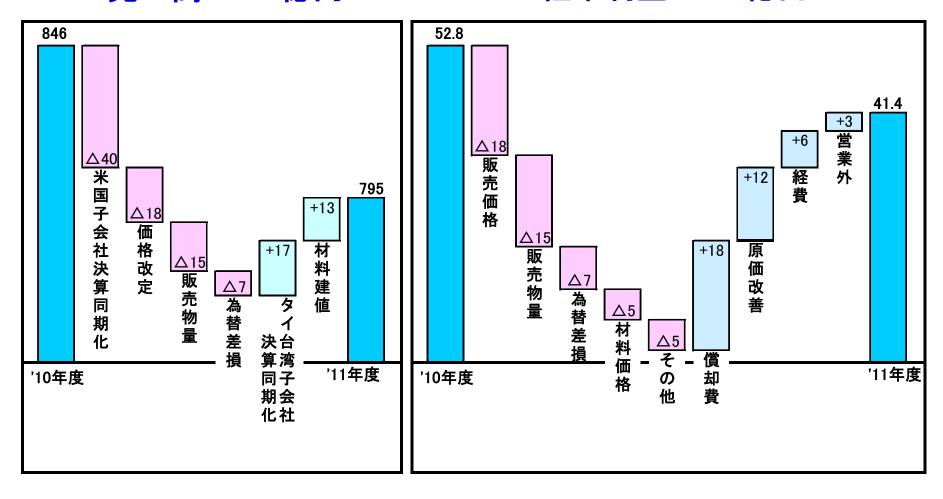






2-2 売上高・経常利益増減要因

≪11年度 対 10年度≫ 売上高 △50億円 ≪11年度 対 10年度≫ 経常利益 △11億円

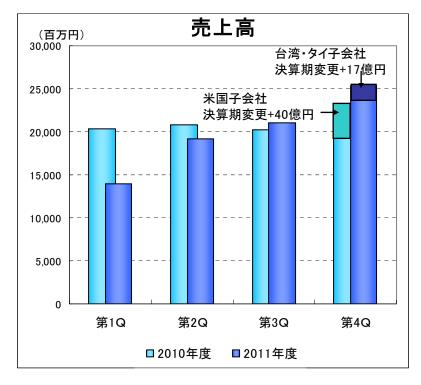


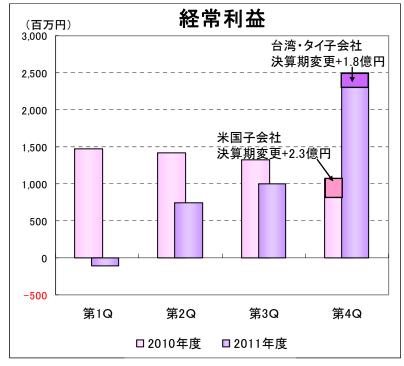


2-3 連結四半期業績

(百万円・%)

	第10	3	第20	Ð	第30	3	第40	Ŋ
	金額	率	金額	率	金額	率	金額	率
売上高	13,975	100.0	19,240	100.0	21,039	100.0	25,325	100.0
営業利益	Δ263	△1.9	753	3.9	1,079	5.1	2,130	8.4
経常利益	Δ109	△0.8	748	3.9	1,003	4.8	2,505	9.9
四半期純利益	94	0.7	475	2.5	524	2.5	2,204	8.7







2-4 東日本大震災・タイ洪水の影響

売上高への影響額(挽回生産等は考慮しない)

東日本大震災

2010年度 △20億円

2011年度 △60億円

(日本△40億円、米国△17億円、中国△3億円)

タイ大洪水

2011年度 △10億円

(日本・米国△9億円、タイ△1億円)

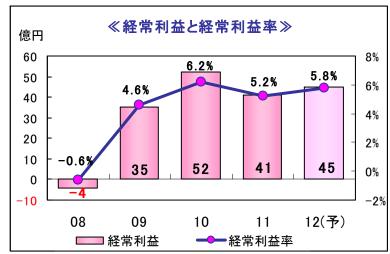


3-1 連結業績予想

[百万円]

					'11年度	Ę			'12年度		רנ ורלב
			'10年度	実績	前期	明比	連単	予想	前期比		連単
				大뗁	増減	増減率	倍率	1、収2	増減	増減率	倍率
売	上	高	84,631	79,579	△5,052	△6.0%	1.4	78,000	△1,579	△2.0%	1.4
営	業利	益	5,151	3,699	△1,451	△28.2%	1.9	3,800	101	2.7%	1.4
経	常利	益	5,281	4,147	△1,134	△21.5%	1.4	4,500	353	8.5%	1.4
当	期 純 利	益	2,969	3,297	327	11.0%	1.8	3,100	△197	△6.0%	1.6
売経	上 常 利 益	高率	6.2%	5.2%	△1.0%			5.8%	0.6%		
R	0	E	8.2%	8.6%	0.4%			7.5%	△1.1%		
R	0	Α	6.0%	4.8%	△1.2%			4.9%	0.1%		
一純	株 当 資	り 産	(円) 684	748	64	9.4%		796	48	6.4%	



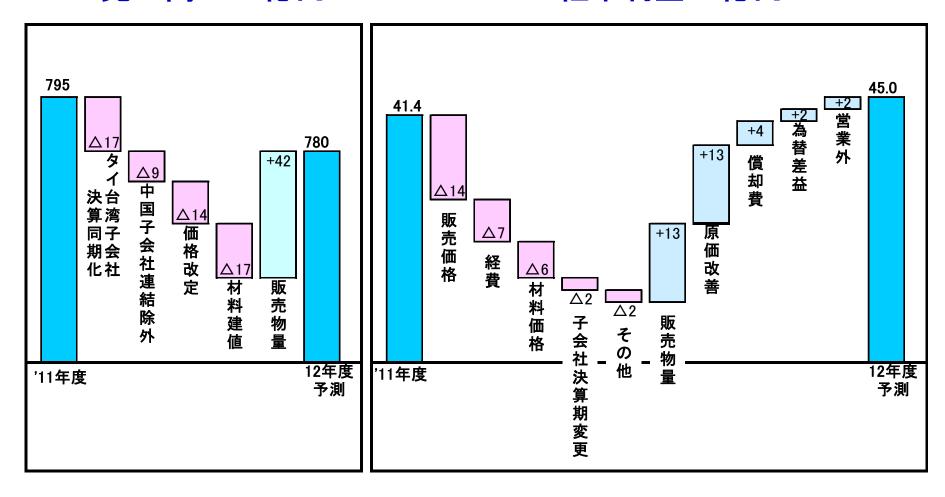




3-2 売上高・経常利益増減要因

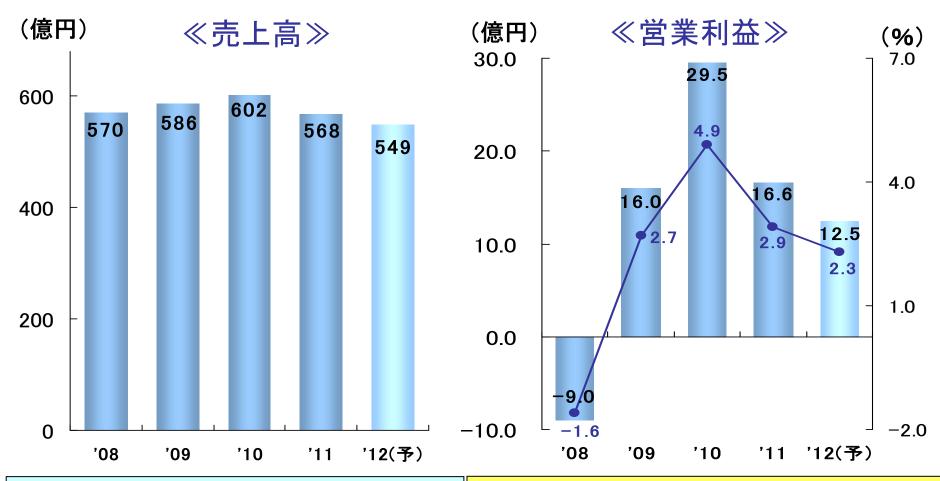
売上高△15億円

≪12年度予想 対 11年度≫ ≪12年度予想 対 11年度≫ 経常利益+3億円





3-3 連結事業別セグメント予想:プレス樹脂製品事業



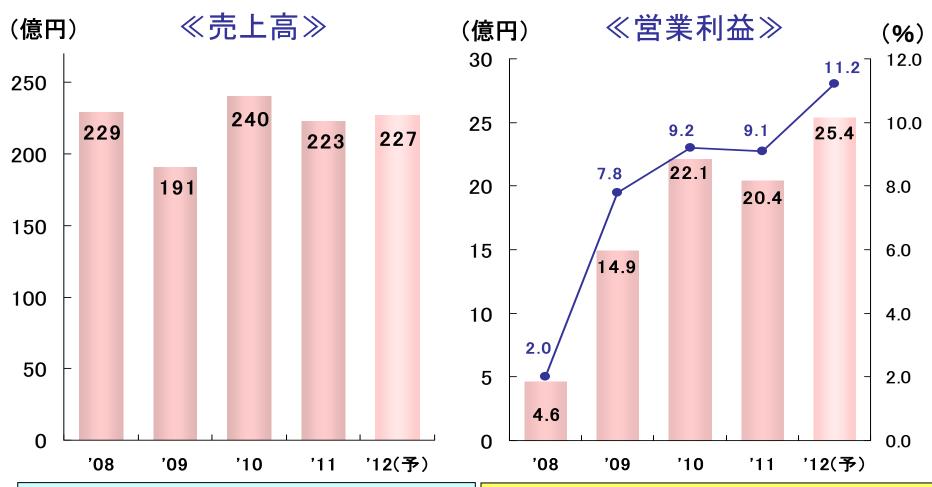
く売上高>

- ・2011年度は、子会社の決算同期化の影響△11億円及び震災 の影響による生産の落ち込みにより減収。
- ・2012年度は、子会社の決算同期化の影響△14億円及び価格 改定・材料建値の下げにより前期比減収の予想。

- ・2011年度は、販売物量の減少・販売価格の低下に加え、中国天津のプレス子会社の型売上と償却費の端境期等により減益。
- ·2012年度は、子会社の決算同期化の影響△2億円及び中国新規 子会社の初期費用により減益予想。



3-4 連結事業別セグメント予想: バルブ製品事業



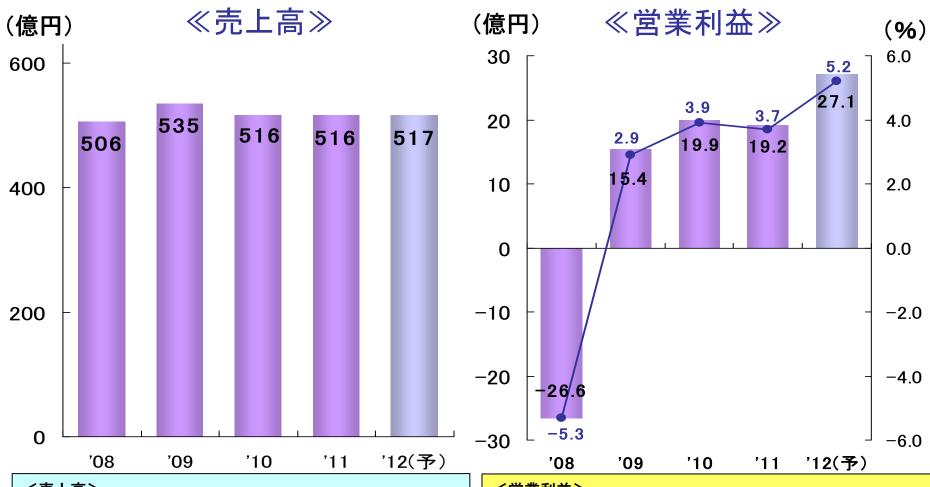
く売上高>

- ・2011年度は、子会社の決算同期化による影響△12億円等により減収。
- -2012年度は、タイヤバルブ及びTPMS製品の生産物量が増加し若干の増収を予想。

- ・2011年度は、円高による為替差損に加え、韓国子会社の新製品の初期投資等により減益。
- ・2012年度は、販売価格の低下や経費の増加があるものの、販売物量の増加及び原価改善により増益を予想。



連結地域別セグメント予想:日本



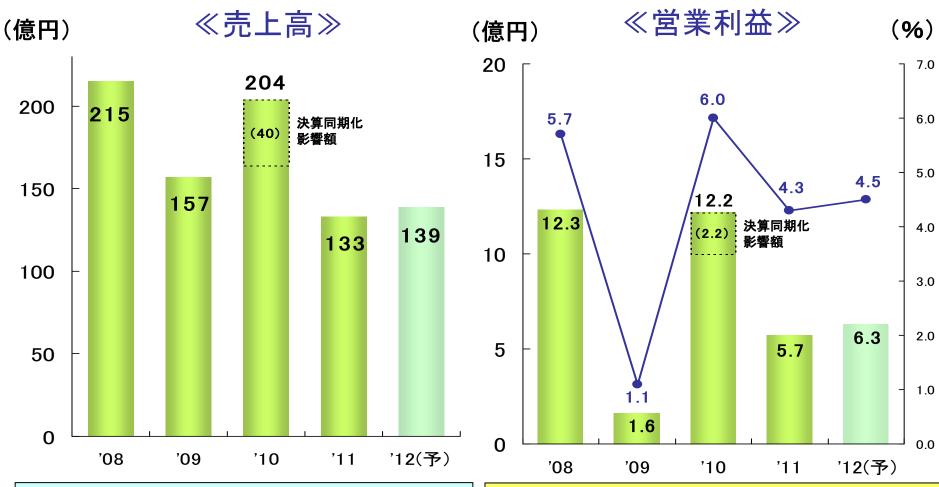
く売上高>

- ・2011年度は、震災の影響による生産の落ち込みを年度後半の 大増産によりカバーし、前期比横ばい。
- ・2012年度は、生産物量が増加するも、価格改定・材料建値の 下げにより前期比横ばいの予想。

- ・2011年度は、型回収の減少・販売価格の低下を原価改善・減価 償却費の減少でカバーし、前期比横ばい。
- ・2012年度は、販売価格の低下・販売物量増による経費増がある も、原価改善・販売物量の増加等により増益予想。



3-6 連結地域別セグメント予想: 北米



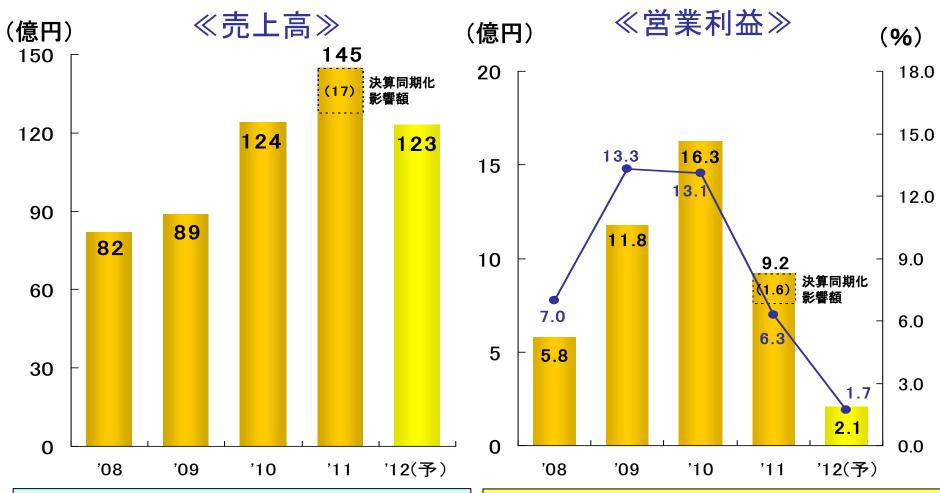
く売上高>

- ・2011年度は、決算同期化 の影響 △40 億円及び北米の自動車 生産台数の減少により 大幅な減収。
- ・2012年度は、材料建値の下げがあるも、生産物量の増加により 前期比4.3%増収の予想。

- -2011年度は、決算同期化の影響額△2.2億円に加え、販売物量 の減少により減益。
- ・2012年度は、販売価格の低下等があるも、原価改善・販売物量 の増加等により若干の増益予想。



3-7 連結地域別セグメント予想: アジア



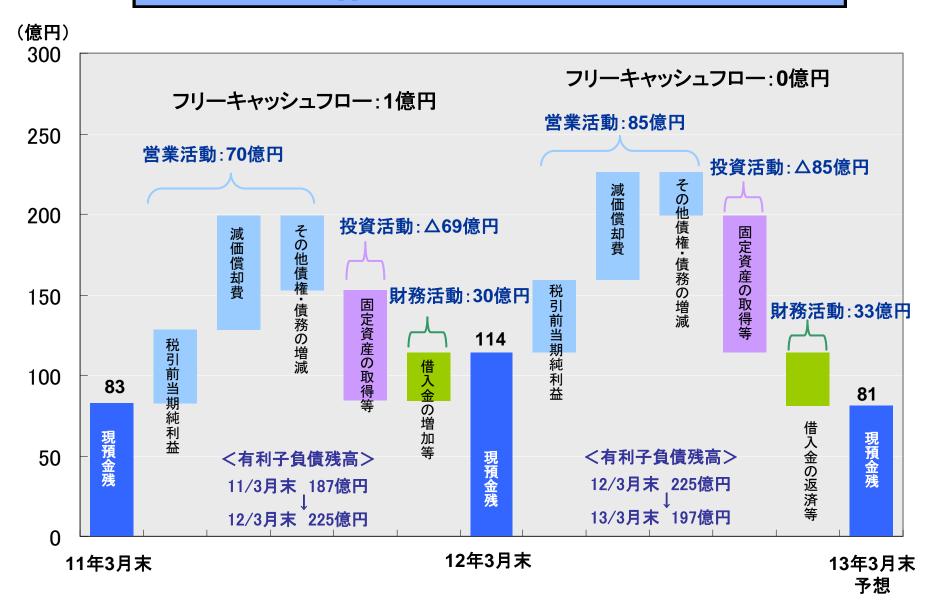
く売上高>

- ・2011年度は、タイ及び台湾の子会社の決算同期化17億円の影響により増収。
- ·2012年度は、中国青島の子会社の連結除外の影響△9億円及 び決算同期化の影響△17億円により減収の予想。

- ・2011年度は、決算同期化の影響+1.6億円があるものの、中国 天津のプレス子会社の型売上と償却費の端境期等により減益。
- ・2012年度は、子会社決算期の影響△1.6及び中国の新規子会 社の初期費用等により減益。

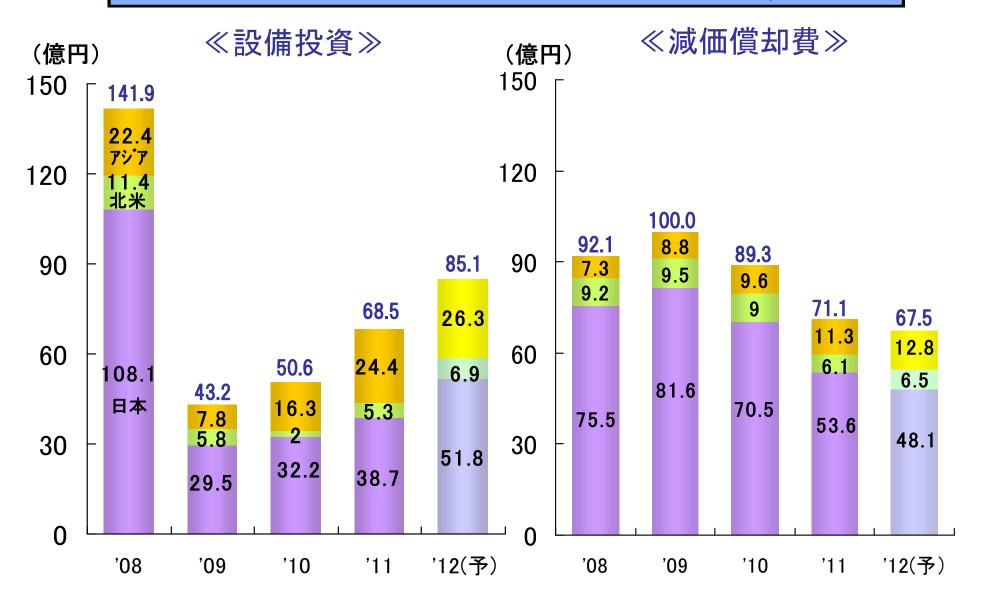


3-8 連結キャッシュフロー予想





3-9 連結設備投資・減価償却費予想





3-10 設備投資の主な内容

く戦略投資の主な内容>

(百万円)

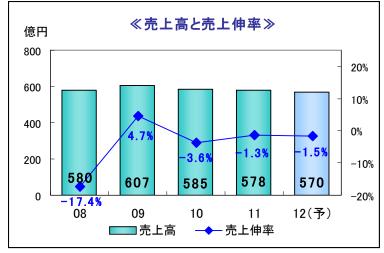
	内容	2011年度	2012年度
	中国子会社 プレス工場増築(天津)	530	
アジア	中国子会社 新規拠点整備(長沙)		270
	韓国子会社 アルミダイカスト生産能力増強	1,400	1,800
	米国子会社 塗装ライン新設	200	
北米	米国子会社 溶接生産能力増強		240
	米国子会社 TPMS生産準備		180
	東北工場 土地・建物購入	520	
日本	東北工場 樹脂・プレス生産能力増強	240	1,290
	TPMS製品 生産能力増強	160	430
	高精度プレス製品 生産能力増強		140
	合計	3,050	4,350

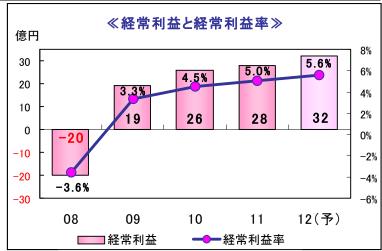


3-11 個別業績予想(参考)

[百万円]

						'11年度			'12年度		
				'10年度	実績	前期	明比	予想	前期比		
					天 棋	増減	増減率	上版	増減	増減率	
売	上		高	58,575	57,840	△735	△1.3%	57,000	△840	△1.5%	
営	業	利	益	2,006	1,934	△71	△3.6%	2,700	766	39.6%	
経	常	利	益	2,637	2,872	234	8.9%	3,200	328	11.4	
当	期純	利	益	1,439	1,850	411	28.6%	2,000	150	8.1%	
	当金(1本	朱当	IJ)	10円	10円	_	_	10円	_	_	
売経	上常利	益	高率	4.5%	5.0%	0.5%		5.6%	0.6%		
R	0		Е	4.3%	5.4%	1.1%		5.5%	0.1%		
R	0		Α	3.4%	3.8%	0.4%		4.1%	0.3%		
一純	株 資	当	り産	(円) 618	659	41	6.7%	687	27	4.1%	

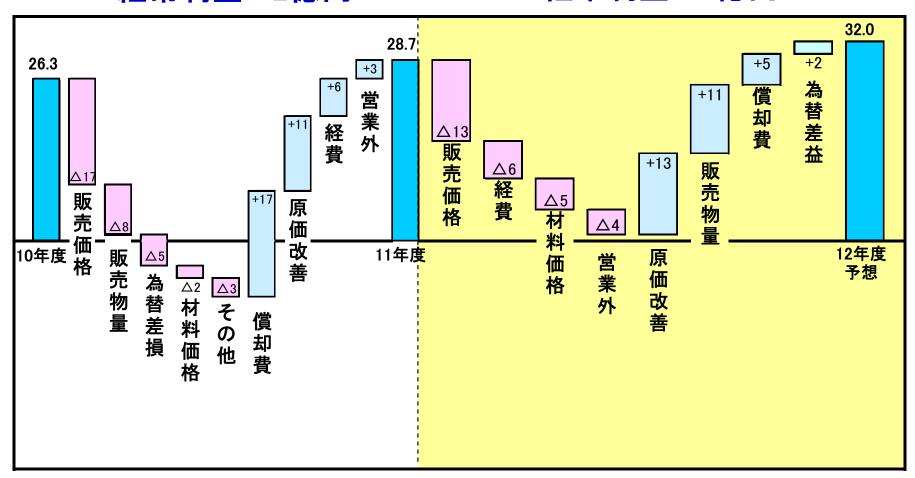






3-12 個別経常利益増減要因

≪10年度 対 11年度≫ 経常利益 +2億円 ≪11年度 対 12年度予想≫ 経常利益 +3億円





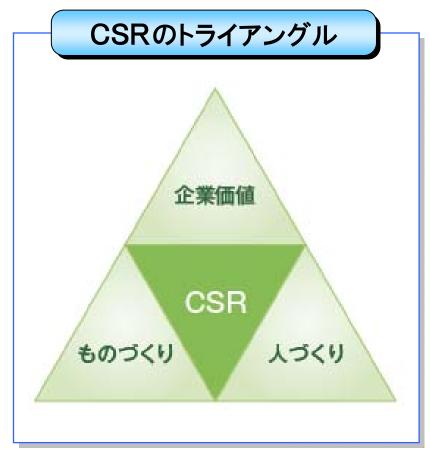
4-1 PACIFIC GLOCAL VISION 2020

<創立100周年 2030年への一里塚として2010年に策定>

めざす企業像・機能のあり方

- ●「連結経営」から「融合経営」へ
- 5つの"シンカ"(深化・進化・新化・真価・信加)を追求する企業

5つの"シンカ" 深化 新化 信加 進化 真価 **(5) (4**) 2 (1) 深化: 改善する力 ② 進化: 革新する力 ③ 新化:事業を起こす力 (4) 真価:企業価値を高める力 ⑤ 信加:信頼・信用を築く力





4-2 OCEAN-15:5つの"シンカ"

長期ビジョンの確実な実効をめざし、2015年の事業のあり方を明確にするため、「OCEAN-12」を「OCEAN-15」に改訂しました。

トップクラスのグローカルな部品メーカーをめざす

深化 改善するカ

QUALITY IMPROVEMENT

- TPS・自工程完結のレベルを上げ、世界品質を実現
- 設備保全の強化と無人化を進め、高効率な生産性を追求
- 匠の技の継承と先端技術習得による"モノづくり人財"の育成

進化 革新するカ

COST INNOVATION

- 業界をリードする新材料・新工法の確立
- 在庫・リードタイムを短縮した画期的ライン造り
- 環境に優しい次世代製品・工法の開発

キーワード

技術と海外 ・ ものづくりは人づくり ・

CSRと環境保全

新化

新技術・事業を起こす力

TECHNOLOGY & BUSINESS

- 要素技術の複合化による新製品開発に挑戦
- CS力のアップとMAAによる事業の拡充
- 新拠点・グローバル生産体制の構築

真価 企業価値を高めるカ

BRAND ENRICHMENT

- 財務体質を強化し、資産価値を向上
- 環境負荷を軽減し、サステナブルな社会に貢献
- 経営を現地化し、グローカル融合経営を推進

信加信頼を勝ち取る力

RESPECT & RESPONSIBILITY

- 経営の透明性を高めるCSR・コンプライアンスの遂行
- 地域と連携し、リスク管理・BCPを実践
- グローカル人財育成をめざしたWLBの推進



4-3 OCEAN-15のねらい

「守りから攻めへ転換」 新たな市場を新技術・新製品・新事業で獲得

- ▶ 為替75円/\$で利益を出せる体質の醸成
- ▶ コンプライアンスとリスクマネジメントの強化
- ▶ 新技術・新工法のスピード開発
- ▶ 環境に優しい製品開発・ものづくり
- ▶ アライアンスを含めた海外事業の拡充
- > IFRS対応とグローバル経営管理体制の構築
- ▶ グローカル人財育成とワークライフバランスの推進

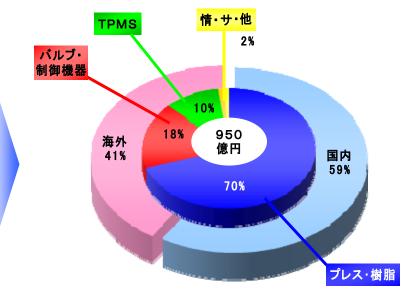


4-4 OCEAN-15:数值計画

【 2011年度実績 】

情・サ TPMS 1% 海外 35% 18% 795 億円 65% 71%

【 2015年度予測 】



2015年度 目標

連結売上高 : 950億円

連結経常利益 : 6%台

海外売上高比率:40%以上

総資産回転率 : 1.05



5-1 プレス技術の進化

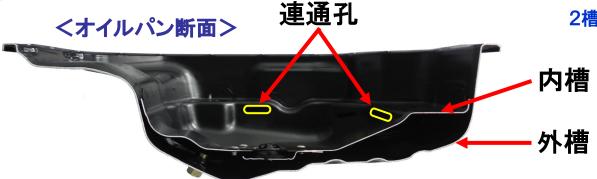
■世界初"2槽式オイルパン"の開発

2011年度トヨタ技術開発賞受賞

オイルパン内を2槽化し、エンジンオイルの 温度上昇を早め、燃費向上を図り、CO2を 削減する



2槽式オイルパンの開発・量産化世界初



連通孔による 内・外槽オイルの 切り替え

■超ハイテン材の冷間機械プレス加工の開発

熱間プレス加工に比べ、コスト20%削減、加工数約8倍





5-2 めっきに代わるフィルム技術

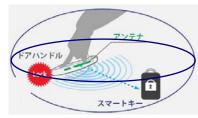
スマートエントリーシステムに対応した

■世界初"インジウムフィルム・ドアハンドル"の開発

日刊工業新聞社 2010年"超"モノづくり部品大賞「自動車部品賞」受賞

高度な光輝フィルムの開発により ドアハンドルのスマートキー機能に対応。環境対応としてメッキ廃止。





フィルムインサートによる メッキ調加飾プレート

■フィルム技術を用いたオーナメント開発

2011年度トヨタ部品標準化賞受賞

「フィルムインサート成形」と「インモールド転写成形」 技術を組み合わせ、オーナメントの流用化・汎用化を 図る。





5-3 アルミダイカスト事業の強化

	太平洋バルブ工業㈱ PVI	太平洋エアコントロール工業㈱ PAC
設 立	1987年3月	2004年9月
所在地	慶尚南道 梁山市	忠清南道 牙山市
資本金	80億ウォン(当社:100%)	400億ウォン(当社/PVI:100%)
売 上	160億ウォン	140億ウォン
	タイヤバルブ(3,600万個/年)	コンプレッサー切削加工(300万個/年)
生産品目	チャージバルブ(1,700万個/年)	アルミダイカスト(600万個/年)
	リリーフバルブ(850万個/年)	



■太平洋エアコントロール工業で ダイカスト成形~加工の一貫生産開始

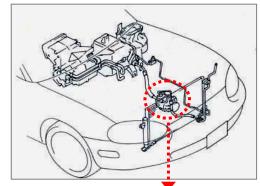
2011 年3月、現代自動車のSQ認定取得

カーエアコン用コンプレッサーのケーシング部品を ダイカストより一貫生産。

今回工場を拡張し、2012年度中に車両300万台分/年、2015年に400万台分/年の生産体制を確立。

設備投資額:500億ウォン(約35億円)※2011~2015年予定

売 上 計画:500億ウォン(約35億円)※2015年予定





シリンダー



5-4 TPMS事業の強化

- ■高機能な新タイプの送信機を開発し、2011年8月から販売開始
- ■北米子会社でTPMSを生産(2012年6月生産開始予定)

最大市場である北米に生産拠点を設置し、日本一極による災害リスク、為替リスクを 回避することにより、安定供給基盤を確立する

■欧州に販売子会社設立

欧州域内における、タイや空気圧監視システム(TPMS)装着法規化に伴う市場拡大に対応し、TPMS部品等の販売・アフターサービスを行う販売子会社を設立

-会社名 :Pacific Industries Europe NV/SA -設 立 :2012年7月

・所在地 : ベルギー ブリュッセル市近郊 ・事業内容: TPMS製品の販売・アフターサービス

・資本金 :1百万ユーロ

■TPMSの新製品「TPMS B-01」開発

一般ユーザー向けの後付仕様でタイヤの空気圧低下を警告

≪特徴と環境効果≫

- ・加速度センサーがタイヤ内の空気圧を測定
- ・偏磨耗抑制によるタイヤ寿命向上
- ·燃費悪化防止とCO2排出量削減





全国の「コックピット」「タイヤ館」で販売

■北米アフターマーケット市場にTPMS投入

2001年の上市から10年が経過し、電池寿命切れに対応



5-5 中国事業の拡充

■中国合弁子会社の設立

急速に拡大する中国の自動車生産需要の対応するため中国中南部地区に新たな生産子会社を設立

•会社名 : 長沙太平洋半谷汽車部件有限公司 •所在地 : 中国湖南省長沙経済技術開発区

- 資本金 : 1,800千米ドル

・事業内容:自動車用プレス部品の製造・販売

- 設備稼働時期: 2012年7月(予定)

出資会社 : 太平洋グループ 47%(日・台・中)、半谷製作所47%、メタルワン6%



■天津太平洋汽車部件有限公司の現地自動車メーカーとの取引開始

中国における更なる事業の拡大および多客化を推進するため、地理的にも近隣の ローカル自動車メーカーと取引を開始

•取引先 : 長城汽車股份有限公司

製品納入開始: 2013年3月(予定)取引製品 : 自動車用プレス製品

■中国統括会社の設立

中国の子会社2社の効率的な業務管理と、生産準備機能強化のため統括会社を設立

•会社名 : 太平洋工業(中国)投資有限公司

•所在地 : 天津空港物流加工区内

資本金 : 30百万ドル

-設 立 : 2012年6月(予定)



5-6 北米事業の強化

■カチオン電着塗装設備の導入

プレスから塗装までの一貫生産ラインを整備し、競争力の強化を図る

•投資額 : 2百万US\$

•稼働開始 : 2012年5月(予定)

・対象製品 : 自動車用プレス製品

■日系自動車メーカーとの取引拡充

北米における更なる事業の拡大および多客化を推進するため、地理的にも近隣の日系メーカーと取引を拡大

取引先 : MMNA(北米三菱)製品納入開始: 2012年7月(予定)取引製品 : 自動車用プレス製品

取引先 : SIA(北米スバル)製品納入開始: 2014年6月(予定)取引製品 : 自動車用樹脂製品



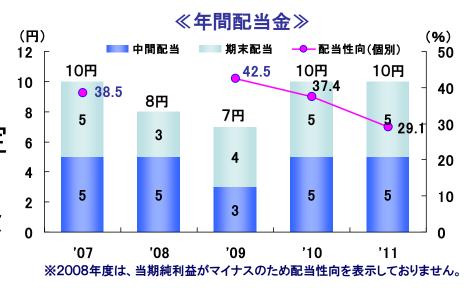
Pacific Manufacturing Ohio Inc.



5-7 グローカルな諸活動①

■株主

- ・継続的・安定的かつ、業績に 見合う配当を指向
- ·2011年度年間配当**10円**を予定 (配当総額:538百万円)
- ·適時適切な情報開示と積極的な IR活動



■顧客

- •差別化した技術開発と競争力のあるSQCDの提供
- •新規顧客、新規地域への拡販・開拓

■取引先

- •公平•公正な取引と相互信頼
- ・サプライチェーン全体でCSRを推進



グリーン調達ガイドライン説明会



5-8 グローカルな諸活動②

■地域社会

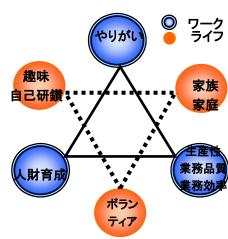
- •地域に根ざしたグローカルな社会活動
- ・地域を巻き込んだ環境保全・防災活動
- ・次世代育成をめざした科学技術・スポーツ振興



タイの小学校へ寄付

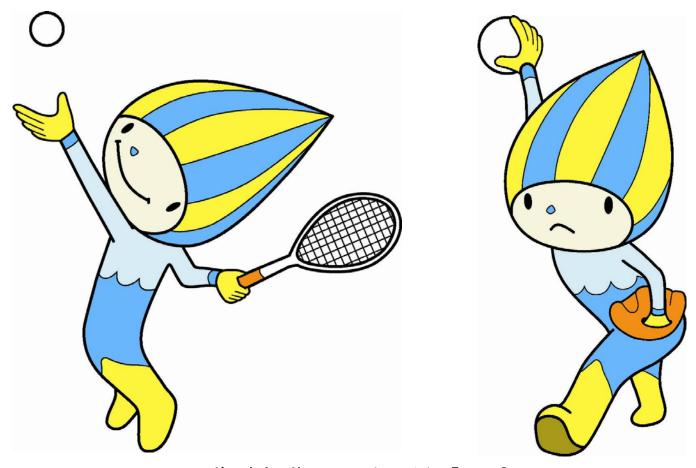
■社員

- •技術・技能の伝承を通じ「ものづくり力」強化
- 「絆と成長」をめざすワークライフバランス推進
- 多様性のあるグローカル人財づくり
- ・心身ともに健康で安心して働ける職場づくり





ぎふ清流国体・ぎふ清流大会 2012年9月~10月開催



ぎふ清流国体マスコットキャラクター『ミナモ』